藤の前遥　地

へ 5
2104
2

京都帝国大学図書

讃岐

[illegible]月もまるうひ讃岐のみ海にあらわれて
世尊舟亭と云ねさきちん我所にあ美坊
[illegible]のそもんけ地に修週ていまるよ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

京都帝国大学図書
利用
請求
2.104
巻 2

[illegible]

[illegible]

## 九条家賦

享保戊午の夏洛中洛外一日くもりなく雨ふりたる夜の明て庭と詠ぬる泉の致景とて[illegible]城郭とかゝる人小さ茶屋など[illegible]市廛[illegible]ゆしき[illegible]雨いとゞ[illegible]の流[illegible]

[illegible]



[illegible]

舟をあやつりきんこの名よかふなく
治くかたをしあつまりて細の海をい
もしりもちえうりも知く筆はな
うふらの玄の名よ和て矢きよ重と
おくめんとも有ものよ何ものやうよ
孤屯の嘉くふ代とうひ汀の春を比
うくく吉屯吉の夕源七今こ丸浦の
詠りれうし

嘉よ嘉くはいしいを書をし比

四賢い信者氏筆記主のうちとて云て
り師の沢を山やうて

短冊行

芳海

芳芳よ河くくうれ清水汀
柳い川と行田書そう つ和
堀うりの新ちつつつつて 重也
行河ち 柏ちく の 当ち 貿水
一ウ 汀ア 清ちる 清川よ 月の 和
嘉よ 小ちる の 長ち 行う 舟
春中

踏らるれく音するのうけ宗門の
鶏はひく〳〵除日の雪も
大もつてを小宮い雪の青おそひ舟
白雲伝い〳〵花原盗人紅
下戸所い去(イナ)してもの酔仲るも
言の言を森と山と笑れる
二 寺〳〵井戸京〳〵誘ふあるを諸紅
祢と言給の袋のは付も素布舟

新(サラ)尚ぬりの初ひをあるふ一を不
姫小を鐵と赤ひ禅衆も
子安〳〵お元雲(カラス)洲てれ寄り舟
浪の新地も今の眼ひ石
節のちよ高るもちを月れも
山畑く紙ひ石〳〵夏の伽れ
強盗の伝よ面仏ゆるひて石
八寸沖寄れ鳴る谷舟

もよおされ候こと[illegible]の菊卿寺　[illegible]
[illegible]の方より山吹　[illegible]

名録

[illegible]の用ゆるかれはや寺のむ　華花
[illegible]や[illegible]　松陰
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]月の末[illegible]の何事仕候と
[illegible]金中一の[illegible]
[illegible]と行て
[illegible]山橋下[illegible]

何某氏のわーの小説ちう伝説
手法の俳諧と論じるよう貧癖とそう
あるいそう初の風とら一中十初のこれをう
ちちちうしあるは蓮門のいまいめいあるく
あるのあるあるいちちういさたあと
ちちれいてかうもれいの猶ようをを
深とをそれして情のなるをもちちくし
かうしちの俳諧のちうてさそれさい
同所の新あるいあれて戯ようあの話と俳て
同諫ちうれあるう

花ちちうの顔のかうちちへは

寶らて新寶の名ようれを
ちいう原深のちうしちう
耳ようちうれを動き

短冊

ちうかとの手ちうの手段の
牛源ちちう家の あ本 里人
言ようあうちうの加減の悪いあく 江仙
行伝至でちあれ云伝 弾

ウ

京極入道中納言月の哥

新續古今　寺子屋師匠　仙

ひとりすむ四つ竹ちかのつひ哥　辭

雪降いしの山とおもはねど　和

ふみとゝめてはとりしれ　仙

高しゝ哥　雪ふる　誠

冷泉大臣のゑ　和

ものゝ　仙

ゝ種ゝ　高の　東花　仙

角ゝ哥　和歌屏のゝ　辭

市流宮ゝ　ゝ　和

東ゝ　宰府の市　仙

年ゝ　ゝ　辭

形ゝ　ゝ　紅

春ゝ　ゝ　仙

詠ゝ　ゝ　辭

出ゝ　ゝ　紅

七夕の祭り　富士　松嶺　仙

雲よりも星のとゝまる時　鶴

海棠のむかふ家と知られけり　仙

ちるもあはれ夕べの春の名残　和

名殘

琴の糸張て掃きし庭の苔　行仙

十六夜や夕べの雲は城　泉



伝信姫ゝまれいこの中年の心　鉄

はしむるの称とゝ年星祈天　可負

年のよの杵て長て清られ　仙

お井戸やけ東町とる一年　湖

文月ちまれは手ゝの湖辞事ゝ

拭ふくく

橋間のとゝ　そのの松

金屋宿より信濃へ越る峠を信濃路へ出る
相別れ信濃へ越る峠を峯と云ふ
信濃と武州の境なり

山井の山うけやうるよ　花の巣

きつと文月の言葉なれとも
金屋宿より信濃路の方へ三里
山と高頭の形よりもく場舎屋くとして
石橋と書るゝ　ゆ十町許の所の事
西ゆりて　ゆるゝ頭ひるゝ　高坂ちり公
もこゝて　ゆるゝ深沢の方のゆこゝて
日新の頂上とあるゝ　まゆの

松も見るゝ　ちやゝゝ神の後れ

江戸京より直道のゆる　後川の方へ
松数子ある　彼地に高坂の四方へ
後川谷　ゆるゝ　ゆゝ
あるゝ　ふもゝゝのゆゝ
ゝゝ立ゆる　ゆゝ
ゆのゝゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ

後川や　ゆゝ立ゆの文ゝ

高瀬の細石をもて花と楽む
おのこなれはよし文月の山寺とさはる
ばかりなれ之の川きよく流れくるさま
ゆく青き高のわらはれ

年ゆくかのちなや星むく

名残

月かこひるわらはの ゆるふ 初之
波を踏くるるふ 俳象

文月七日朝言うくほのぼのの
やうにはれ行時のりえて頃第一
はきつきくれいとはるきけのの
ふありて青うり部屋の中につれも
旅宿のうれさきあり夏はうれ
ことくはきうきれ星会のうと
ゆひやうてゆの

青空にく紅きむきん

天の河

[illegible]の一句あらむと宗祇法師を
相手にせられ[illegible]のあれば
百花[illegible]山の翠微にあまて
[illegible]橋[illegible]木の梢と
[illegible]
[illegible]
[illegible]

小男鹿[illegible]第[illegible]一句

[illegible]行

[illegible]眠る[illegible]命む
[illegible]の[illegible]下[illegible]
[illegible]の[illegible]の月[illegible]て
[illegible]
[illegible]の中[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
正南
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
文門

陰さやかに見るものの水底に
堪へたる里市の山ら花
にかすりのとしよりの新んと
らけ法とてもの夢に雨さ
二
紙の鶴うぐのちさてたづと
そもそもの新のまさに
山ちけて千ハ石の
をしのあまのまあまれ



花明をしてるやかるれ
堪春ひとは堪らやら
鶴しあとを春に月ちあ
道後の杖別すの
武蔵ちく法特ちれ高
余江のちらこの
四年よりの食もの
独法の寺帰童の

長
れ
市
産
弁
玄
吹
川

名録

馬の前よりおれおつやうにまた　石見

ふるさとのもみぢのもとにたちよりて　正南

深のむやあるこころとおいたちて　文川

一ちまでもむや　梅のおる越　冬松

石橋をなつかしまれ　柳れ　慶雅

山吹とうの高のもとにたちおりて　湖行

むの碑をなつかしみ　松尾

和歌のしるべをたずねるの場　和文

名月やたちまちまるはの音　了句

文月中頃親言ちのくくよりまれ

大郎京の伯の来桐夫子より移れ

稲穂よりまんまるもなりうけ

むつ　京師のい絵ふ桐夫子のお京と

絵　く　ふ　おのむ　蕉を本解の

親　仕名のもうち　社ふ　のふて

我も推樓の一なるよ別墅となるべきなり
庭の山嶺いひもてなんもかの風雅の
不信なれいとなるとかりて事と侍る
地ゑ〳〵

やりみやしきを待とかこひ山一

名録

某氏某氏うこうの号や雅の友　桐夫
いろの天人ゆ〳〵書のむ　文可

元母の眼よ書蒲刀やきよのかて　雲小
年のよれもうくるるもの野水　捨石
野〳〵年ゆのくりや桐のむ　花青
美のまれ元者や高森の古国子　梅月
梅妻よ拾ゑ岩ゆ〳〵こゑ哉　春雨

伊隠

伊勢の山にある数奈三と云ねはれる
元あるらしあるしよりあるとをとをくねをこ
此国の名産なれいと用よめるまして
[illegible]

## 松價

数奈のめ[illegible]
[illegible]
四時の[illegible]
和漢[illegible]
杜丹の富貴と[illegible]

[illegible]富貴活生[illegible]結[illegible]の人用[illegible]
人間の[illegible]
人[illegible]新信の[illegible]
上[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

てこ国よりて絶わらんとするにいたる
常盤の名に云増し さればこそ千歳の栄も
まに風姿にあらはなれんとすれはあらし也
は松の姿によりし光られて歩みく風林く
日向によそおし むとは一句に奇怪と求き
難くして言語と彩色を専らともし 松の
儀にかなふべくて言にこもる人と諷諫すれ
抽ずべし

錦繍の松にかゝる淡雇の雲



錦別

蕉門を俳諧の常とは言ずれども
之え旅に踏破せしまでさそしても
其までのむかし飛鳥しく又行先は
家によりとかくん郷を昨と定めてと
なるく弘めるまましかし

致尓

芭蕉忌の日郷に追乙ん氣清哉

立鳥のあとはかなり松の雲

南浦

吉田の何某風露子ハ田舎に住家と
かまへ家居の中に風雅の情と
まねかれ人あれハ一夜此亭に
やとりて

秋虫の音や来まてこゑかなく

それより天満のうへ誰と伴ふ風韻
東頭の二子竹節やうの其の鄰へて
おくりゆくに

帰るてもよそに八朔の節そうれ

天満の岱雅子ハ我師行脚のむかし
お馴しみ人なれハ其の情称あるをたつね
行るに折から来あハせて談話しく
ありつゝ折々語るにいとあハれなるにえらむ
ける小島に出てなりゆくに海まとひつゝて
おもろ小松ありけり猶まつ人来る百歳と
とらへて志らへ旅懐の実情を得へかり
といふなり

短夜に波も見えくややむ本楼

## 錢谷

うつろふやよ林の落葉の色と成

い跡よあるひはなく　つる

来月かはて湯のうちうち銘竹色の
ゆ〻し以弁言よ移り行るこゝひん
百のるもいと移るれ

わるものの言ひそうふ林の雨



## 松賦

西行法師の閑寂い住居よ移りて住ひ住て
行人征馬の往来とつゝとり一事の為
事のなふうれ月の夕ふ沼よ月と沼ふ
事あるよりふ沼ふ為て雪の詠もさるあん
雪ふく一株の雪と移くゆるれ第の
なゝふるのゝ雪ふうふ沼明ゝ雪とも
うゝやまれ牧ゝ雪とおもるもあて
雪ゝ以れよ雪ふと雪ふるあん　ちを
ゝ世の中の雪とふるよ餘ふ雪と
雪てなるもふるもうてふふ

ことには春を風雅にしてあそびては〔の〕
まれともあるは猶はその一章と
作りて永く此卿の記念に
何とかかし
松にめでたきのこゝろも松と定

## 鎖盆石

修成なりしのあらましは士峯の
侍とを…あり…きる趣をこよ
して富士集とも…一冊と作りて

いはゆる詩歌連俳とも…の仲秋の
八日…は…を…ね…けるの
讃とらせ…の…と追ふ
なせなり

…月の…

## 孝田より文通

けるの…

いまゝて清…の…

世の氣色もなしりもやけるを
まて八ヶ法(はり)の方も出てゆし読さんと
口吟し侍れは、法師のうけて　う筆
あつり流筆八日市より出船して
頭る事御つゑ細ふうしき世の方、
見つてやれしも御門初浮てめて
まふ

名月まね　　　風露

つきの師

名月のころ先考田とかりて天満のうら一ヶ所を
好みうそしうも同宿に宇治のとこを訪ひ語て
ゆくうは風露にうけうえらひけるあしくは
古来よりも紐んで参らせてもあつめぬと謂
さうまこと妻の旅女の御とは許さて来りて
いかるのやくうもとにりてうれ路脱の用意ふ歩て
らりけるにあつらうあさうも有ふ名月の
氣晴さるようて降りふ出船の見風と待て
いさよや月見饗宴の積租も知らしからんと
吏碩のゆし分り行てめきめつ見え山海の
二章ふ不す高く新れ行脚漂泊の身の

たそかなまれいかなる盃のかけなるよう
今宵の月とかこちほとよかる寓まの家よ
遊ひて美肴の備へて肴ぶりし雨うきの旅の
労かりて向すゆきこえ日の様と以てれ
ふ州の釘語も高ま思ふへきやし

終了る旅亭探しあくて　きよの月

素琳亭

此所のたよりと行よ雨よ降るにうかされて
そうしぬ侘よ我日とかくれ暮ぬらむ西の

日数られしく更旅のめしまそふうされて
素琳の内よ投ふ客あふて明　る著る
露をる館ふうなるめわく田酒のなきるまき
山畑の宿りのもいと晴やかなれは
けさの眺をよあらし　いかとの梦とて
ふくささて行く

むきさやらいも引渠の眠れき

短冊行

春の夕やふるくなれる人を祝　風鶴

極もめでたしなる山　里紅

[illegible]やうやうふるる月と雪頃

京より[illegible]とて来　蔵女

[illegible]とて和尚の住る拍　石

[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

大坂の[illegible]の[illegible]を[illegible]おられ　蔵

[illegible]行[illegible]つくられる人を　頃

[illegible]の房[illegible]まかり　雪

[illegible]代よあるる[illegible]　石

[illegible]の[illegible]の[illegible]山[illegible]　頃

母の顔[illegible]信不の[illegible]　蔵

[illegible]年[illegible]ぬ　石

[illegible]の不[illegible]　雪

[illegible]月[illegible]の[illegible]て[illegible]こと[illegible]の日和　蕉

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]物　頃

[illegible]法[illegible][illegible][illegible][illegible]　露

一[illegible]て[illegible]の[illegible]の[illegible]　和

[illegible]の[illegible]の[illegible]月の[illegible]　頃

[illegible][illegible]出[illegible]せ[illegible]　蕉

[illegible]の[illegible][illegible][illegible][illegible]　和

[illegible]情く[illegible]て[illegible]　頃

[illegible]の[illegible]山と[illegible]東[illegible][illegible]と[illegible]　蕉

[illegible][illegible]て[illegible][illegible]　頃

名[illegible]

[illegible]人[illegible]の[illegible]の[illegible]　風蕉

[illegible]の[illegible]山[illegible]や　仙留　[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]妻　蕉安

[illegible]の[illegible]や[illegible]　支頃

餞別

春らの峰の霞の章あらはれ

ちるさくらのさそふ

風詠

花空のあらるるかぜの雲の

d